

会員の皆様は既に御承知のことと思ひます
が、今回は恩師渡辺寧先生のご逝去の報告
をせねばなりません。
渡辺寧先生には、かねてご不快でおられました
が、昭和五十一年十一月十七日午後八時突然
ご他界になりました。
今や我等弟子達は幽明境をことにし、かつて
のお元気なお姿に接することが出来なくなり
ました。同窓会々員一同は悲しみの極に達し
哀惜の情にたえません。

十六年には電気通信研究所長を併任、昭和三十年には工学部長の要職を務められました。その間評議員として教育、研究ならびに大学の運営管理に種々の仕事をされました。静岡大学には満九年の長きにわたって、その整備発展に寄与されました。静岡大学ご退官後も東海大学客員教授を務められ、先生は一生を通じて研究と学生の教育と指導に専念されました。

電気学会沙野賞、電気通信学会功績賞、毎日新聞通信賞、恩賜発明賞等々五指に余る賞を受けられ、國からは藍綬褒章、勳二等旭日重光章を受けられ、昭和四十五年文化功労者にあげられたのであります。またこの度のご逝去にあたっては生前のご功績に対して正三位勲一等瑞宝章が贈られました。が当然のことと思ひます。

先生の研究活動は電気工学、電子工学の広い分野にわたっており、

A black and white portrait of Prof. Tadao Ueda. He is a middle-aged man with dark hair and a mustache, wearing round-rimmed glasses. He is dressed in a dark suit jacket over a white shirt and a patterned tie. The background is slightly blurred, showing what appears to be an indoor setting with other people.

渡辺先生御逝去 報 告

報告

電氣系同窓会

發行
東北大學
電氣系
同窓會東北支部
仙台市荒巻字青葉
電話 22-1800

発行責任者
和田正信
(題字 高野知彦氏)

高野知彦



故 渡 边 審 先

恩 師、
渡 边 先 生

八田吉典

いても、あまり細かいことは指示されなかつた。私が卒業して、渡辺研究室の職員となつた時も、「おまえは放電管をやれ。」と言われただけで、あとは一切私の自由にまかせられた。しかし先生自らの熱意のこもつた研究態度に私は大きな影響を受けた。先生は真理探求を何よりも愛され、また常に独創的研究に取り組んでおられた。用事があつて教授

近くたつた。しかし慈父を失なつたような寂寥感はすこしも去らない。思い起こせば昭和十七年渡辺研究室に入門させていただいた以来、私はずっと渡辺先生の御指導を受けてきた。

上の御研究に対して、電氣学会浅野賞、電氣通信学会功績賞、毎日通信賞、藍綬褒賞、電氣学会論文賞、郵政大臣賞、電氣学会文献賞、科学技術庁長官賞、恩賜発明賞等を受けて居

(九) 半導体電子工学(七六)、
(三六)となります。
又寄稿先については電
気学会誌(一一〇)、
電話・電通誌(四〇)
海外誌(E. N. T.
Z. F. H. T. 及
び P. I. R. E.)
が二〇編、電気評論
(一七)、其の他(八
七)であります。これ
等の研究からも明らか
な事は、真空、気体、
個体電子工学の全分野
に亘りその発達の当初
から先駆的開拓的研究
が為されています。又
電気機械の様に研究の
余地がなさそうに見え
る分野に於ても、やろ
うと思えば出来る事が
示されて居ると謂える
でしよう。以上の外専
門的文献となる様な著

われます又電波審議会委員、学会会長副会長として熱心で先生の場合研究と教育とは一体となつて居た様な感じでした。又に尽されました。又一面教育にも極めて御熱心で先生の場合研究と教育とは一体となつて居た様な感じでした。又

II、お人柄の片鱗

1、早朝起床

「おのれの良きは謂わざ、人の惡しきは語らず」と古語にあります。ですが、先生は全くその通りで自分のことはあまり口に出されない。

先生の早朝起床についても直接には何も承ったことはなかつたのですが、御停年のたしか一年位前のある日そつと伺つて見ました。ですが、御停年のたしか一年位前のある日そつと伺つて見ました。

「ウン普通四時或は三時に起きるよ。」と言葉少な目に語られた。実は先生は四〇年或はそれ以上にも亘つて早朝起床を続けて来られたのであります。研究の内容とその数において他に比を見ないと謂はれて居る様ですが、これは頭腦明晰のみならず比類なき御精勵あつての事でありましょう。

先生の御部屋に伺うと

室にうかがうと、いつも計算尺を手から離さず、熱心に研究にうちこんでおられた。そんなわけで、先生の研究の邪魔をしないようにならべく教授室にうかがわないことにしていた。研究室で毎週行なわれるゼミは、いつも大部分の時間を先生の研究発表にとられてしまふ有様であつた。このように先生は自ら範をたれて若い研究者を刺激されたのである。

研究者としての先生は、一言にしていえばわが国の電子工学の先覚者の指導者であつたと言えよう。先生は電子回路、電気機械、放電管、半導体等について研究されたが、このようによくつかの飛躍がいつきや流行を追つての飛躍ではなく、ある飛躍は、決して思研究から次の研究に移る場合、常に研究を進めると言える。しかし、その飛躍は、決して思いつきや流行を追つて

おのれのわ
わざ、人の悪

いつも何かの原稿を書いて居られる様でした。外国雑誌等も家に持ち帰られて早朝に目を通して居られたのであります。

I、温情

知能の優れた人の中には近より難いとか、冷たい感じの人も少くないと言われて居る様であります。ですが先生の場合には何となく暖い、赤外線でも出て居る様な暖みが感ぜられる。接すれば接する程感謝と感激が多くなると多くの人々が述べて居られます。眞の教育は言葉ばかりではない。実践であり、人徳であり、感化であり、人徳であり、偉大なる教育者でもあります。実践なき処に感化はないし、人徳なき処に感化は薄い。先生が作ったと謂われて居る所以であります。

II、スポーツ

先生はリクリエーション的なことは殆んど何もして居られない様でした。たとえば、電気機械の研究で、直流機の火花除去の為に水銀散流機を用いる研究から自然に放電管の研究に移られた。ついで放電管研究の必要から気体放電の理論の研究と取り組まれ、次第に物性論に興味を持たれるようになつた。そして電子放出の研究からだんだん半導体に関心を持たれるようになり、本格的な半導体電子工学の研究へと進まれたのであった。このような研究態度に、私は強い影響を受けたと思つてゐる。

III、先生

先生は昭和二七年に通研所長になられ、ついで昭和三一年に工学部長になられた。そして定年後は御承知のように静岡大学学長を九ヵ年もつとめられた。先生は管理職をお好みでないようであったが、偉大な教育者であり研究者である先生がその

幕蔵王に行かれた時直滑降で太もとにかなりの打撲症を受けられたのですが一月二日の朝、何とか歩けそうだから出懸け様」と謂われて宿を後にしました。賽の河原から上に人影は全くなかつた。あまりに良い粉雪だったので刈田の頂上まで登りつめ、下りは実に快適だつた。翌年夏に齊藤君と二人先生から吾妻磐梯縱走のお誘いを受けた。二日目西吾妻の頂上を過ぎて間もなく猛烈な雷雨に見舞われたが幸い近くの獨立小屋に駆け込んで助かりがきつくとも、炊き火の煙で眠れなくとも温容変らずで、山の自然を味わう心は深く高いものがあると感じた次第でした。

（＊よりつづく）
られます。『三年後の改選の時渡辺学長は満票に近い支持で再選されました。そして静岡大学に大学院の設置が本ぎまりとなつて遂に新制大学に対し固体が閉ざされて居た門戸は開かれることになつたのであります。そして静岡大学は新制大学のトップクラスと認められる様になつた訳ですがこれ偏見に渡辺先生の御人徳と御努力の賜と感謝して居ます』
と。吾々は次の時代には東北大学学長として

卷之三

卷之三

戻られることを期待して居たのであります。一方、各地に分散して居る学部の統合移転、内規を改めて先生の絶体三選を期して居たわけで結局は東北大学の学長当選を辞退されました。昭和四五年には文理学部の改組等難事業の進行中であつた静岡大学では学長選挙で、宝章が贈られて居ます。以上盲人巨象を撫でるの類で先生の片鱗にふれましたが、謹んで先生の御冥福をお祈り申し上げましてベンを掲きます。

一ド研究所に在外研究員として出張しておられた清水教授は今年四月元氣に帰国され、前述のように、運営委員長として活躍していました。中村信良助手が昨年一月電気音響工学講座(通信)の助教授に、菊地新喜講師(一般工学)が今年四月応用電力工学講座(電気)の助教授にそれぞれ昇任しました。長期出張者としては、現在西閔助教授が今年三月から米国カーネギー・メロン大学に渡辺助教授が八月からカナダのマニトバ大学へそれぞれ一年間の予定で留学中です。

最後に電気系三学科の教授、助教授の構成を以下に記しておきます。

Digitized by srujanika@gmail.com

電気通信研究所の近況

通研広報委員会

昭和52年10月5日発行

東北大学電気系同窓会東北支部便り

部門名	教 授	助 教 授	助 手
音響通信	城戸健一 （応情研）	比企静雄	柏谷英樹
電気通信方式	野口正一	大見忠弘	牧野正三
固体電子工学		宮本信雄	増永良文
電波伝送	西田茂穂	米山 務	白鳥則郎
超高周波	小野昭一	水野皓司	塩田郁雄
通信用電子物理	武内義尚		増永良文
電気通信材料科学	津屋 昇		石垣久四郎
情報理論	荒井賢一		白鳥則郎
光波通信工学	重井芳治	中宮城光信	柏谷英樹
記録工学	川上 彰二郎	下江 治	増永良文
光電変換工学	岩崎俊一	横尾邦義	白鳥則郎
真空電子装置	吉田重知	池田 順	塩田郁雄
団体振動回路	中村慶久	今井捷三	増永良文
工学	山之内 和彦	森賢次	白鳥則郎
超真空電子工学	高橋 正	海沼清三	塩田郁雄
制御工学	柴山乾夫	伊沢義雄	増永良文
電子音響学	山之内 和彦	大森賢次	白鳥則郎
	和彦	池田 順	塩田郁雄
御子柴 夫	小野寺大	今井捷三	増永良文
	中鉢憲賢	森賢次	白鳥則郎
櫛森坪佐 引田内々 淳清和木 一三夫博	大百瀬 銀矢 一郎	山下 佐藤 弘明	柏谷英樹
	丘努	竹内 登志男	増永良文
		浅見誠治	白鳥則郎

校から始つて、時代と共に幾度か組織も変転してまいりました。そして先輩の努力で現在では幼稚園、中、高の上に四学部と夜間の二学科を有する大きな私立大学に発展しております。工学部は昭和三十七年機械、電気、応用物理の三学科で始まりましたが、四十二年土木工学科が設けられ、大学院は四十一年応物に修士課程、四年には応物に博士課程、電気機械の両方に修士課程ができ、さらに四十九年には電気、機械にも博士課程が設かれまして、私立では東北地方で唯一の総合大学となりました。工学部長は当初よりご存じの永井健三先生（電大14）で、ます／＼お元気で学部の采配をふるい、むずかしい私学の運営にも日夜苦労を重ねて居られます。

あります。創設当時は東北学院は知つていても工学部のあることを知らない会社が多く、最近では求人も少なく不景気も手伝つていささか苦勞しましたが、最近では大メークーからも、大坂名古屋方面からもぞくぞく求人があり、地元の会社のご好意もあって、百パーセント就職できる状況です。今年はどうなりましようか、同窓会員の諸先輩にも東北大同様覚えて下さると大変幸いです。このほか助手、技術職員の確保、時代に即したカリキュラムの再編成など工学部特有の問題もあつてもともと文科系の大学の中で技術教育を向上させるには大変な努力が必要だと思います。

をあげられました。おらためて感謝とともにご功績をたゞえたいと思います。先生は今健 康を回復され國見一工 目のご自宅で余生をおくつておられます。

通信部門は長く教授 は永井先生お一人でもう つたのですが、五十一 年四月岩手大工学部長 の大森忠夫教授(電 8)が赴住されました。中 川正弘助教授(電 14)が P C M 関係、菅原五 郎助教授(通 19)がア ンテナ、佐々木通之助 教授の高周波トランジ トの研究と永井研究室の 遠藤十之助、伊東享利 教授(通 39)両助教授が電気工学の下で環境電磁波工学という新しいブ プジェクトに参加して活躍中であります。中川研究室には本学出身の大沼孝一講師が先生を 助けています。良雄講師が属し、小数名がラエティに富んだ研究をしていきます。この研究室は音響学、自動制御、計算機関知四郎助教授、佐藤良雄講師が属し、小数名がラエティに富んだ研究をしていきます。この研究室は音響学、自動制御、計算機測定、工学的見地から騒音、交通制御、振動

仙台駅から仙石線で約二十分、多賀城址、末町の松山など旧跡の多い多賀城市の旭ヶ岡の上に工学部が創設されてから本年で満十五年たちました。ご承知のように東北学院は明治十六年創立といふ主義をもつキリスト教主義の学校で、神学

东北学院大学工学部

宮 本 敏 彦

同窓生だより

り電力、通信、電子制御といった四つの部門が自然とできて、現在でもこの構造はくづれずにおります。強いていいうならこれまでには強電に力を入れて来たように思います。大内三千三教授につきいて東北大學から高崎草二郎教授と高野知彦教授（電気工学）、山形大学から小林惟康教授を迎へ、これに伊藤修、高橋徹（山大修士）の両助教授と芳賀昭講師（山大修士）を加えて強力なメンバーであった時期もあって、そのためか学生の人気も強電に集まる傾向が今でもあります。しかし大内先生が五十一年三月退職され、小林教授も嘱託教授となられましたのであります。なお高野教授は現在研究室を勤務員して地電流による地震予知の問題と取組んで活潑に研究されています。大内先生は東北大では渡辺寧先生の下で主に実験指導を担当され、お世話になつた方々も非常に多いと思いますが、以来岩手大学、東北学院と長い間教育にあたつて、立派なご業績

研究がなされていま
る。第一線を退かれた
第一の関先生が定
められた。遠藤教授は太
電気専攻主任とし
て、また就職副部長と
相変らずお元気で
の発展のため心を
多忙な毎日を送つ
られます。

最後に電子部門
四十九年四月東北
西澤教授のところ
士課程をおえた木
照講師が赴任し、
は助教授として研
に活気を吹き込んで
ます。教授は宮本
17) 近藤哲夫講師
学の修士卒業の加
邦講師で四人です
生を入れると三十
越す大所帯となります。研究テーマ
として有機物質の
を考えており、ア
ラセン発光ダイオ
などの研究が進ん
ります。

次に大学院の電
学専攻について少
べますと、定員は
(修士)各年度五
後期(博士)二名
うことになつてい
が現在は前期は定
杯、後期は二名お
す。電子に一名、
に一名の博士課程
りますが、前者は

山形大学工学部

大内隆夫

次にその内訳と取
りくんでおられる仕事
などを紹介致します。
先づ第一に、今年四月
富山大学より本学共通
講座の管理工学講座に
原健一教授が赴任され
ました。今後も生体情
報処理の研究に向って
準備を進めておられま
す。電気系の大御所で
ある近野正教授は有線
通信工学講座に所属し
メカニカルフィルタと
その応用ならびにその
解析についての研究を行
ない三人の助教授を
養成しその他多くの人

材料を育成されておりま
す。熊谷泰爾教授は昭
和二十八年通信工学科
の卒業で現在電子管講
座に所属しております半導
体薄膜の研究を行なつ
ております。佐藤益美
教授は電力工学講座に
所属しプラズマ等の研
究に従事しております。
奥山克郎助教授は昭
和三十八年に電子工
学科を卒業され現在熊
谷先生の電子管講座の
助教授として手腕をふ
るつておられ、半導体
薄膜の研究に従事して
おります。最近、テル
ル蒸着膜に関する研究
で学位を取得され若手
のホーブとともにされて
いる。執筆を担当して
いる大内隆夫は昭和二
十八年電気工学科を卒
業し電気機械工学講座
に所属し非線形磁気応
用ならびに情報システ
ム工学の研究に従事し
ています。このほか、
横戸健一教授は東北大
学理学部地球物理学科
出身であり電子基礎學
科の電気理論講座の助
手をしておりましたが、
本年四月に講師に昇格
されました。このほか
西塙典生助教授は山形
大学電気工学科を卒業
後、東北大学大学院博
士課程に進学され佐藤
利三郎先生の下で分布
定数線路特に変成器に
関する研究をして來ま
した。現在は電子回路
講座に所属し同じ研究
を続行しております。

東北電力

美山悌二郎

本学電気系の近況を簡
単に報告いたしまし
た。

東北電力の電通同窓会は現在約九〇名おり、それぞれいろいろな部門で元気に活躍しております。このうち、約三分の二、五十七人が本店に勤務しており、火力発電所や支店も入りますと、七割の六十五人が仙台市内で働いております。

この四月、電気工学科から、齊藤敏、菅原一博、佐藤成俊の三君が入社しています。この五年間、ほぼ毎年一人といふテンポで入社しております。

快挙だと言えます。昭和二十一年、ここ一年間に何人かの方が退社しております。一方、この五年間には、同じく広畠忠一さんは自営に、また二十一年卒の小松和彦さんは、かねてから関連会社の常務取締役に、同じく二十年卒の板垣信之さんは、東北電気保安協会へ、同じく広畠邦祥理事は工務部長から関連会社の常務共同火力部の常務取締役に転出し向していきましたが、この度同社本務となりました。昭和二十一年卒の高橋匡敏さんは企画室調査役から、東北電気保安協会へと退社されました。こうして、同窓生は若干減少しております。

去る六月、会社の定期総会があり、役員が大いぶ変わりました。同窓生で最も先輩である電気十七年卒の松田常務は副社長へと昇任され、当社の技術の総指揮の役に仕かれ、そのうえ電源立地の最高責任者として、活躍されております。この時電気二十一年卒の若佐繁理事は青森支店長から宮城支店長へと久しました。同じ二十一年、卒貝沼栄松さんは、

所長へ昇進されますが、電源開発本部付の設、運転にあたっておらず、と東新潟火力の建設、運転にあたっておらず、この度同火力発電所長へ昇進されます。また、二十三年電気卒の幡和也さんもまた、原子力部調査役として原発の仕事にあたっております。美山理事は、最近原子力学会支部設立につくしておりました。電気二十二年の片倉英雄さんは、この六月営業部次長から理事山形支店長へと榮転され、活躍が期待されております。当社の総合研究所には通信二十一年卒の桜井俊夫さんを始め、二十二年電気卒の渡辺純さん、同じく志満嘉夫さん、二十四年電気卒の堀英一さん、二十五年卒の小林美代介さん等異才が研究を遂行しております。また最近二十五年卒の熊谷和夫さんは通信課長から総合研究所次長へ榮転され、研究管理にあたっております。

この六月、役員異動に伴い、片倉さんは、電気二十四年卒の佐藤義一さんは配電ム室長として総合機械化につくしておりました。前述の佐藤義一さんは電気二十五年卒の後藤一郎さんは情報システム室長として、通信二十二年卒の今野晴夫さんは企画室調査部次長から電源調査室長へ昇進、二十五年卒の今野晴夫さんは企画室調査室長をはじめとして部長クラス以上の同窓生は約九十名の内八名となっております。

東北電力には火力発電所が八戸、秋田、仙台、新仙台、新潟、東新潟とあります。前述の貝沼さんは東新潟火力の所長さんですが、電気二十六年卒の伊藤匡四郎さんは仙台火力発電所長さんとしてそれを発電の大任を勤めております。

電気二十四年卒の伊藤祐一さんはこのたび秋田支店次長から宮城支店次長へと仙台入りされており、電気二十六年卒森孝一さんは現在、新仙台火力の所長さんとして、同じく八島章さんは情報システム室次長として、務部次長として、同じく八島章さんは立地環境部次長として活躍されており、さらに若年の二十七年卒三橋倭郎さんは山形支店次長へ二十八年卒の河野道信さんは技術部次長へ

日立電子(株)
仙台工場

早坂悟好

平さんは工務部次長へ
また二十九年卒大和田
精一さんは秋田支店次
長へと栄進されており
ます。こうして、部次
長クラスの同窓生は十
六名の多きに達しています。
このほか多くの
同窓生は課長、副長、
主査と、管理の職につ
いています。同窓生九
十名のうち、特別管理
職以上は五十七名がお
り、さらに一般管理職
を含めますと八十%の
同窓生が管理職として
活躍しており、当社電
気、通信両部門の大き
な推進力となつております。

では、設計部門、生産技術部門、資材部門、一部の部品加工部門をも加えた一般的な工場形態をとつたものとなつております。さて、母校の電気系同窓会員としましては一時六名を数えておりましたが、現在では、早坂悟好（昭和四十年電子卒）、大西正己（昭和五十年電子卒）小林進（昭和五十一年電子卒）、の三名になつております。早坂は生産技術部門において設計後の機器が製造部門へ移行する段階での作業標準、標準時間の設定、作業方式の設定および改善などの業務をはじめとし、他方では生産設計における実装技術の取り組み、技能教育などに携わっております。大西正己、小林進は、共に設計部門において、前述のボタブル用単管カラーカメラとその応用機器スタジオ用三管カラーカメラの開発設計および生産設計に携わっております。こうした積極的な力を買われ、一方では両名共に、日立における教育の一環

では、設計部門、資材部門、生産技術部門を擁し、一部の部品加工部門をも加えた一般的な工場形態をとつたものとなつております。さて、母校の電気系同窓会員としましては一時六名を数えておりましたが、現在では、早坂悟好（昭和四十年電子卒）、大西正己（昭和五十年電子卒）小林進（昭和五十一年電子卒）、の三名になつております。早坂は生産技術部門において設計後の機器が製造部門へ移行する段階での作業標準、標準時間の設定、作業方式の設定および改善などの業務をはじめとし、他方では生産設計における実装技術の取り組み、技能教育などに携わっております。大西正己、小林進は、共に設計部門において、前述のボーダー・タブル用単管カラーカメラとその応用機器スタジオ用三管カラーカメラの開発設計および生産設計に携わつて一方では両名共に、日立における教育の一環である日立工業専門学校への当工場からの受験生のために社内教育講座の講師として予定されております。こうした積極的な力を買われ、一方では、尚、一時当工場に在勤しております同窓会員の消息をお知らせ致します。